

陸上クラブ紹介 No.5

信州大学陸上競技部

こまかさ倶楽部（信大陸上部OB会）の名簿記載者数はもうすぐ500名を越える。名簿の最初には、現長野陸協顧問の伴野慎一郎氏や小林繁人氏の名が、また、創成期には、現在長野陸協で活躍される多くの方々の名前をみることが出来る。

昭和24年に新制信州大学が設置され、41年に教養部が発足するという歴史的流れの中、44年に現長野陸協副会長の小口正行先生が信州大学に赴任され、信州大学陸上部はいよいよ本格的な組織となっていた。古き伝統を継承しつつ、現在毎年90名前後の部員により活動がなされている。

信州大学陸上競技部の最大の目標は、北信越イン

ターカレッジで優勝することである。私学の台頭の中、決して容易なことではないが、最近では、平成14年に男子が、16年に女子が久々の総合優勝に輝いた。また、より多くの者を日本インターカレッジに送り出すことや、全日本大学駅伝への出場を果たすことも、部や部員の大きな目標である。全日本大学駅伝は、平成11年に17年ぶりの出場、さらに14年にも出場を果たした。

信州大学は、分散型キャンパスであり、部員の練習環境は決して恵まれたものではないが、合宿、合同練習、行事等の工夫の中で、互いのモチベーションの高揚を図っている。組織としての完成度、規約の持ち方、OB組織など、多くの点で、陸上部は、信州大学体育会サークルの中でも範となる部と自負している。これらはすべて、小口前部長の置きみやげであるが、それらの良さをこれからも守りつつ、発展させていきたい。

全国大会入賞者をもっと輩出すべきなど競技力での課題はあるが、学生が自主的に自らの活動を行なうというこの自主性こそが、信大陸上部の最も誇らしい伝統であると考えられる。

文責：三條俊彦



山田榮一郎さん

マスターズ陸上で日本新記録

長野市陸協施設用器具部長の山田榮一郎さんは、9月20日第8回長野マスターズ陸上長野市大会において、男子M60の五種競技で3564点（走幅跳4m66、200m29秒27、やり投38m27、円盤投39m81、1500m6分06秒33）の記録で日本新記録を樹立しました。従来の記録は3476点です。おめでとうございます。

編集後記

長野市陸協の会報「動き」6号をお届けします。秋、野も山も紅葉に色付き始め、スポーツの季節になって参りました。我々も若い人の中で手足を伸ばし、共に体を鍛え、後期も無事過ぎ、短い期間であっても、あきらめずに続けることが生きる希望になり、その日その時を精一杯生きたいと思います。（早川）

SHINANO MATE
SENSITIVE BRAND WITH THE ELEMENT OF NEW TECHNOLOGY.



ATHLETIC UNIFORM

株式会社 **しなのメイト**

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE (0268) 81-1336
F A X (0268) 81-1337



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会会報紙として何号か発行されていました。

発行所 長野市陸上競技協会
発行人 浦野義忠
編集人 早川千吉郎

本年度前半を振り返って

平成16年度も第6回長野マラソンを皮切りに、スタートが切られました。今回の長野マラソンは、過去5回行ってきたコースを変えての、いってみれば初めてのマラソンといっても過言ではない大会であり、実行委員の一人のして大変神経をつかいました。東和田のスタートの問題、急に曲がるコース、Mウェーブ往復走路、繁華街通過の交通問題等いい始めれば切りの無い程、会議の席上で論議されました。そんな不安を持って実施されましたが、天候にも恵まれ、事故もなく、一番嬉しかったことは、選手たちに喜んでもらったことが本当に良かったと思っています。大会が終わった後、信毎の建設欄にマラソンを走った選手達の感想が、異口同音に良かったということで掲載されました。私達地元陸協として、会員の皆様方のご協力をいただき、さらなる発展につなげて行かなければと思っています。

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利博

次に、小中高校生の大大会も前半戦が終わり、これからは先輩達からバトンを引き継いだ下級生の活躍の場になりますが、前半戦を振り返って感じることは、例年になく全国大会への出場者が少なかったように感じられます。高校市内大会の折りに部員の減少傾向を感じました。部員が減少すれば、競技力も衰退傾向になります。それぞれの学校で指導者、生徒達が同じ仲間を一人でも多く勧誘し、まずは底辺拡大をはかり、その中から全国で活躍できる選手育成に励んでいただきたいと思います。今年は例年になく暑い夏であり、トレーニングするにも大変であったと思いますが、大変であった分、生徒たちの活躍につながると思います。今年は特にアテネオリンピックで熱い感動を沢山いただきました。さあ、後半戦の活躍を心より期待したいと思います。

市町村駅伝5連覇と市長表敬訪問

駅伝部長 土川國人



テープを堂々と切りました。その連覇を、田中監督以下陸協役員と選手12人で驚沢市長に報告をお伝え致しました。選手一人一人から「苦しいレースを逆転で優勝できてうれしかった」と聞いた市長さんが、「激戦の中の優勝は意味が大きい。しかし、長野市は常勝の期待があり、大きな負担となりますが、是非毎回がんばってほしい」と激励を頂きました。

今回、広徳中2の佐々木健太選手起用で私には一つの思いがありました。県縦20回出場後から監督2年目、第32回大会（1983）のこと、全日本距離スキーの佐々木雅俊選手（北野建設）を北海道で合宿中なのに飛行機で帰って貰い、5区青木峠の難所区間を任せ、距離スキーで得意の峠の上りで快走、上伊那を逆転しトップに立ち、区間優勝もする活躍で、1日目の優勝、2日目も長野市は最終区、大逆転25秒差で念願の初優勝を達成できたのです。

そのときの雅俊さんが健太君のお父さんです。こうして2世の選手誕生で、20年も前の思い出が沸き騰がり、年齢を越えて襷を繋ぐ駅伝は、楽しさ、苦しさ、また、観戦する人をも挽きつけるのです。全国では駅伝が無くなるばかりですが、長野県民を挽きつける駅伝はズーと続いてほしいと願います。

エース大久保貴志選手移籍後の初駅伝は苦しい？と感じつつ臨んだ今春の大会でした。昨年、4連覇した勢いを今年も受け継ぎ、秋の県縦へ繋げたいと戦力ダウンの中、苦心のオーダ編成で臨みました。

1区、小田切垂希選手から佐々木健太選手のトップリレーと出足良くスタートできましたが、伏兵と思われる松本市に追い込まれ、アンカーが襷を受けたとき1分3秒も開き、致命的なリードをされてしまいました。しかし、連覇の意地があるところを申し分なく発揮したのはキャプテン高野和彦選手。中間点で先頭を視界に入れるとさらにスピードアップし、観衆が大勢見守る競技場入口で抜き去るという快挙で、5連覇の

市営陸上競技場の公認更新について

主競技場（第1種）・補助競技場（第4種）の5年間公認有効期間は平成18年4月21日までである。

競技場が設置されたのが、昭和51年であるので、次の更新は30年という歴史的な節目に当たる。過去の更新時には市当局のお計らいで、全天候走路の表面改修舗装を始めとする各種の破損、老朽化による改装をお願いしてきた。

また、ルール改正による器具の更新として、男女の槍の入れ替えや新設の女子3000mSCに対応するための障害物更新等、用具類の補充も継続されてきた。

しかし、30年という期間は、施設、用具にもかなりのダメージを与え、今夏、皆様ご承知のメインスタンドも大改修されることとなった。サブトラックにある用器具庫や汲取りWCも、その機能や美観面で耐え切れない現状となっている。

投擲器具では、使い古されて規定重量に満たない真鍮製ハンマーや、木質部に傷を負った円盤も残されている。

このような観点を踏まえ、8月20日、「公認を更

用器具部長 山田榮一郎

新するための指導をいただく」ということで、日本陸連用器具委員会より高木良郎先生をお招きし、施設、用器具の現状を点検して貰い、公認継続への問題点をご教示願った。

なお、この席では、施設面の長谷川体育と用器具関係のニシ・スポーツの担当者からも具体的なお助言をいただいた。市陸協では、これからのご指導・助言を基本としながらも、特に第1種公認競技場での競技運営に相応しい施設の拡充を次期、検定までに市当局にお願いしていく方向である。

今日の競技会では、より情報の正確さと迅速性が求められることから、電子機器を積極的に採用したり、棒高跳びマットの大型化に対応する収納場所の新設等を視野に入れながら、公認継続に取り組んで参りたい。

終わりに、メイン競技場の利用時間の延長やサブトラックの走路整備等、市民競技場のトレーニング利用の促進や障害防止に配慮されている運動場関係職員に感謝と御礼を申し上げ、用器具関係のご報告とします。

思い出の写真シリーズ

第24回ソウルオリンピック大会 思い出の写真一枚を中心に 《第4回》

長野市陸上競技協会 副会長 依田邦夫

田様、ご面会の方がお見えでございます。」と流暢な日本語で。一瞬「エーッ」と三人。ロビーを見ると、県陸協の唐沢会長と奥様でした。「僕達も研修に参りました。ヨロシク。」金一封を頂きました。その夜は、会長夫妻を囲んで一同で大宴会。異国でのこの感激の場面は終生忘れられません。これが、その思い出の写真。

《第四日目》
競技場でトラック決勝レースの研修。成果や如何と！成績芳しからず一同がっかり。疲れてホテルへ。
《第五日目》
全員無事、元気でKimpo空港へ。帰国の途に着く。この一枚の写真、なんとすばらしき哉。



時は昭和63年9月28日より10月2日まで。県陸協会長よりオリンピック視察研修審判員派遣指名をされ、団長伝田扶夫氏、風紀委員長伝田邦夫ほか、長野市、佐久、東筑、南安の各陸協と県実業団より計22名の参加で研修。研修日程に従い、以後簡単に記し、忘れられない思い出の写真一枚について、その時の状況を記します。

《第一日目》
朝7時長野駅前よりマイクロバスにて全員出発。午前11時新渥空港着、午後1時大韓航空機にてKimpo空港へ到着。マンモスホテル宿舎へ。

《第二日目》
晴天、競技場へ。素晴らしい競技場。我々のスタンド席はゴール近くの特等席。走高跳の競技が近くに見られるところ。

日本代表選手の「佐藤恵」選手の活躍を眼前に、手に汗を握る思い。結果は第11位。健闘空しく退場する「佐藤恵」選手に盛大な拍手を贈り、午後3時すぎホテルへ。

《第三日目》
思い出の写真の一枚がこの日。競技場では、表彰式の光景を見て、一同興奮。チョゴリー姿のコンパニオン、観衆の眼をひく。午後3時ホテル帰着。フロント係より「依田様、塩原様、伝

第3回 ホープさん

広徳中学校 佐々木健太



陸上を始めて

僕は、中学校に入って陸上を始めました。最初は、ついて行けるのか、とても不安でした。しかし、すばらしい先生と先輩に恵まれ、どんどん自分を引っぱって行ってくれました。先輩には、いろいろなことを教わりました。駅伝では、力を合わせて戦う楽しさを知ることができました。

2年生になり、目標は大きく変わりました。全国の標準記録を切ることを目指しました。北信大会から徐々に調子を上げ、県大会にのぞみました。県大会では、広沢先輩と一緒に全国大会へ行けるようになりました。その時は、本当にうれしかったです。その後の北信大会でも優勝することができました。

そして、いよいよ全国大会です。前橋の会場に

着いた時、「決勝に残れるかなあ」と思うと少し緊張しました。予選の前日に、もう一回競技場に行きました。その時は、とても混んでいて、回りの人がとても速そうに見えました。全国大会だけあって、今までの大会とは全然違う空気が立ち込めていました。予選では、一組目で走り、二位。全体では七位でした。しかし、決勝では、足が重く自分の走りができずに終わってしまいました。この悔しさを忘れず、今後につなげていきたいと思えます。

今は、チームで駅伝に向けて練習をがんばっています。駅伝でも活躍し、全国大会に絶対出場するつもりです。これからも応援をお願いいたします。

長野マラソンに車いすが加わる

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利博

第7回 長野マラソンは、平成17年4月17日（日）に決定されましたが、新たに車いすマラソンが加わります。これまでの経過について申し上げます。ご理解の程よろしく申し上げます。

【これまでの経過】
第1回長野マラソン終了当初から、車いすランナーを参加させてほしい要望がありました。第6回コース変更を契機にということで、6000余名の署名簿を添付して、各関係機関へ要望書が提出されました。こうした状況を受けて関係機関で会議を開き、論議が重ねられました。その結果、クリアすべき課題については一定の方向付けができ、さらにはノーマライゼーションに向けた社会の潮流等を勘案し、



2005年第7回大会からの参加について、7月28日に開いた組織委員会に提案され、承認されました。

【コースについて】
ハーフマラソン（21.097km）
長野日赤付近スタート⇒典蔵寺ショートカット⇒スタジアム正面
スタート時間 AM8:35
参加定員50名
主管 長野陸協

以上のようなことが決定され、来年に向けての準備の段階に入りました。車いすマラソンが加わることにより、審判の皆様方には負担のかかる点もあろうかと思いますが、会員の皆様方のご協力をいただき、成功のためご尽力の程よろしく申し上げます。

山本晴美選手 2大会全国制覇

6月4～6日まで、アテネオリンピック予選を兼ねた第88回全日本陸上競技選手権大会が鳥取市で行われ、女子やり投げで54m48で6年ぶり2回目の優勝を果たしました。

また、9月25～26日、新潟市で行われた第52回全日本陸上競技対抗選手権大会で、4年ぶり3回目の優勝の栄冠に輝きました。おめでとうございます。

なお、山本選手は、9月28日からシンガポールで行われた第1回アジアオールスター大会に日本代表選手として出場しました。



国体選手 長野市から7名決定

第59回国民体育大会が、埼玉県熊谷市で、10月24～28日まで開催されますが、長野市から7名の選手が長野県代表として選ばれました。男子では、少年A400mに宮沢洋平（長野工業）、少年A円盤投に池田正太郎（須坂園芸）、女子では、成年A100mに三枝夏季（信州大学院）、少年A400mに鳥羽貴絵（長野日大）、少年A円盤投に山崎麻美（文大長野）、少年共通走高跳に小林恵（長野商業）、少年共通棒高跳に田中明莉（更北中学）です。7名の選手のご健闘を、心よりお祈り申し上げます。

なお、コーチとして、篠原克修（信州大学）戸谷直喜（文大長野）山本晴美（長野市体協）、支援コーチとして山田憲一（長野日大）が参加します。